



# 名古屋市 子ども・若者総合相談センターの 取り組みについて

センター長 渡辺 ゆりか



# 子ども・若者総合相談センター概要

---

◆開所日：月～土（祝祭日除く）

◆開所時間：10時～17時 ◆休業日：日・祝祭日

## ◆職員体制◆

◇常勤5名 非常勤3名

\* 精神保健福祉士 \* 社会福祉士 \* 産業カウンセラー

\* キャリアコンサルタント \* 看護師 \* 保健師

◇専門員

\* 臨床心理士 \* 精神科医

\* 各専門アドバイザー

（子育て・コミュニケーション・発達障害・法律）

## ◆相談の流れ

名古屋市  
子ども・若者  
総合相談センター

◆対象◆  
概ね39歳までの  
名古屋市内在住の方

ご本人/ご家族

訪問  
相談

来所  
相談

面談&  
プランニング

ご本人/ご家族

相談員

民間支援団体・公的支援機関

同行

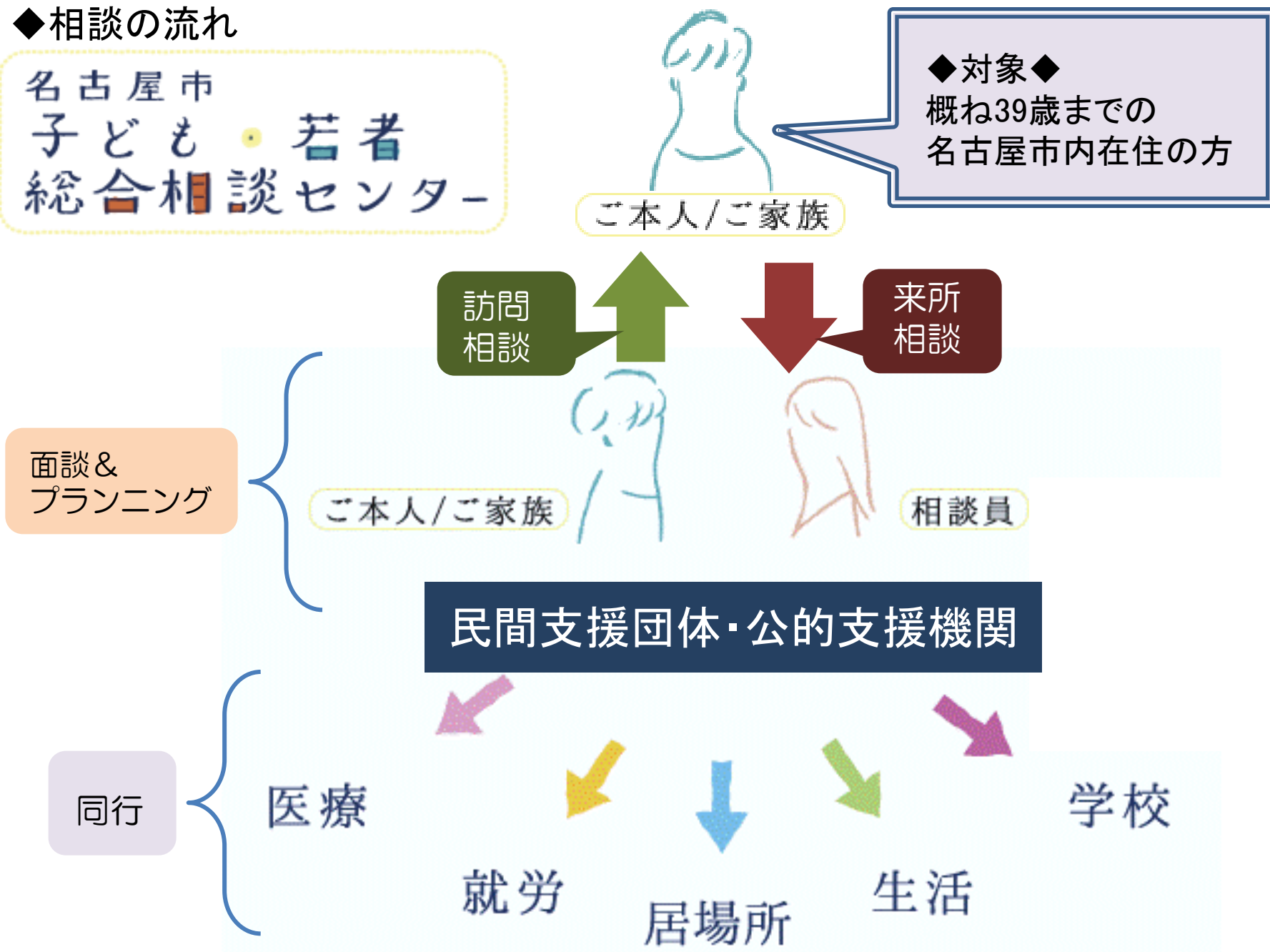
医療

就労

居場所

生活

学校



# 子ども・若者総合相談センター実績

---

開所 6/25～1/31まで（約7か月）実績

## ◆ 新規 登録件数

257人：1か月平均：36.1人

## ◆ のべ相談件数（面談・電話・メール等）

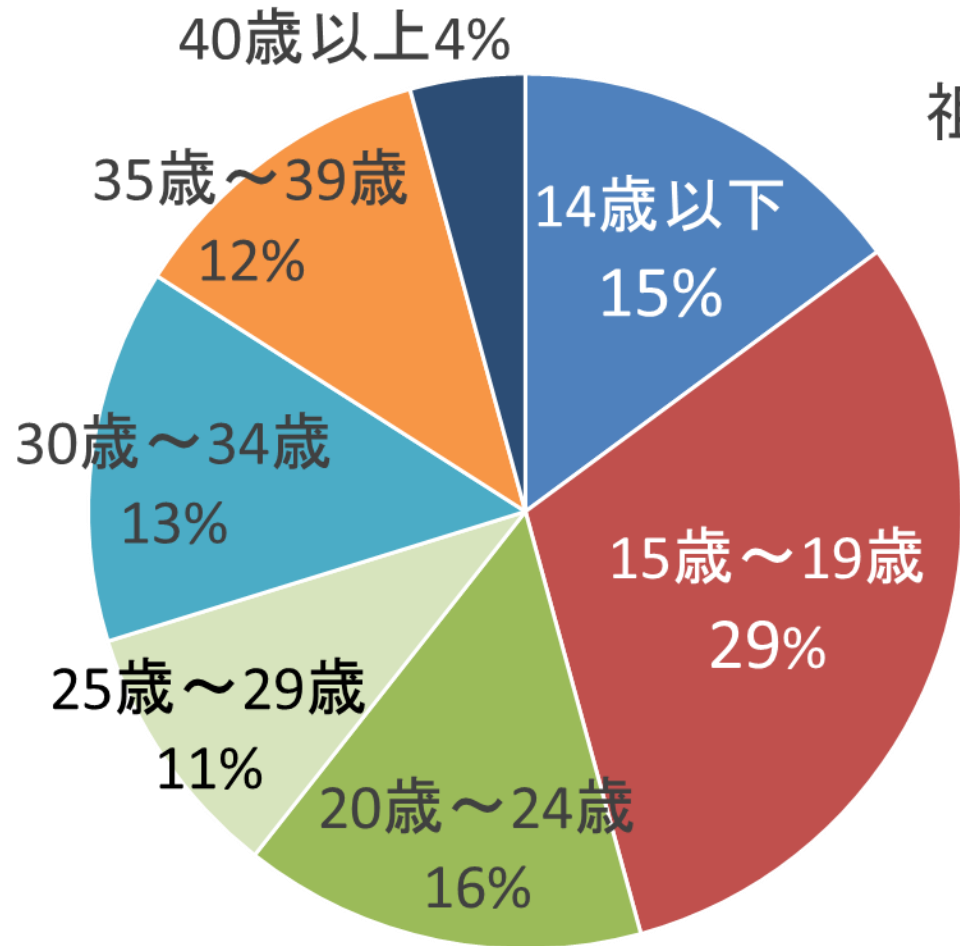
2048件：1か月平均292件

## ◆ 訪問相談（アウトリーチ）

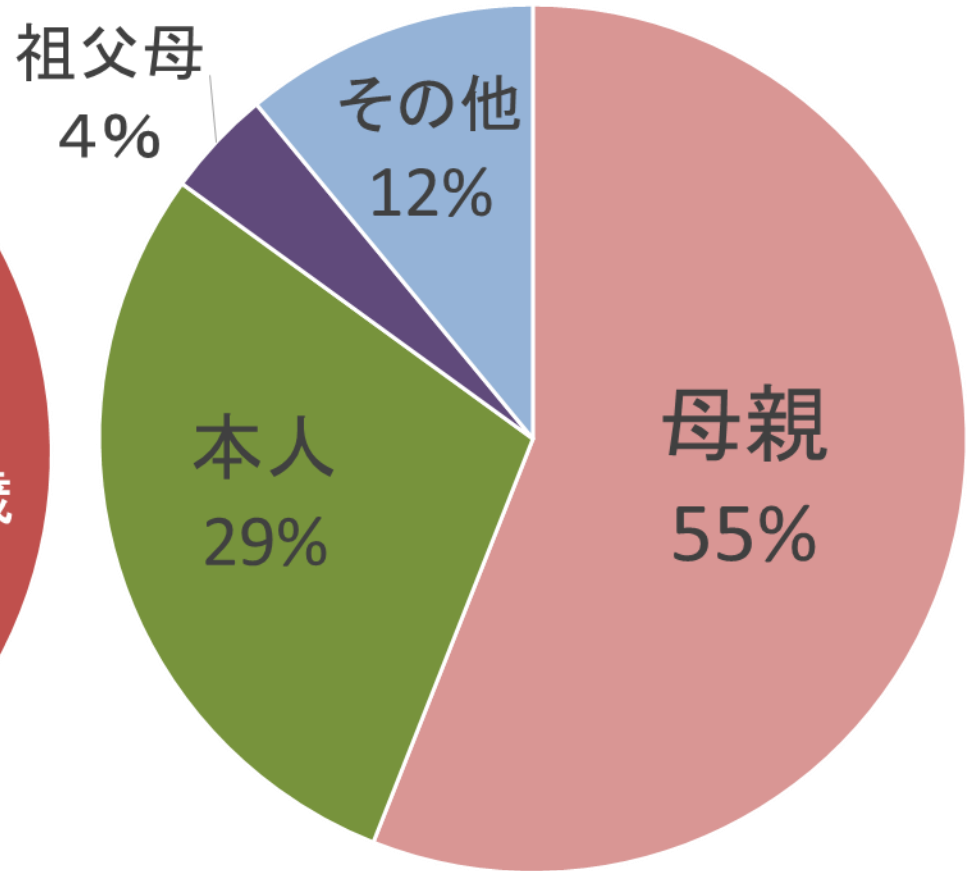
114件：1か月平均16.3件

増加  
傾向

## ◆対象者



## ◆来所者



- 
- ◆20歳以下の対象者のほとんどが母親（保護者）の来所
  - ◆30歳以上の対象者になると、本人が来所する

	新規登録者の悩みの内容	主訴		
		第一	第二	第三
1	ひきこもり	53	3	0
2	就労の悩み	45	19	4
3	不登校	36	9	0
4	発達障害	23	6	3
5	精神障害	19	13	3
6	人間関係の悩み	15	14	5
7	親子関係の悩み	13	23	5
8	ニート	10	7	1
9	暴力の悩み	7	8	8
10	非行	7	5	3
11	いじめ	5	0	0
12	知的障害	4	2	2
13	身体障害	2	4	0
14	その他	18	12	4
	計	257人		

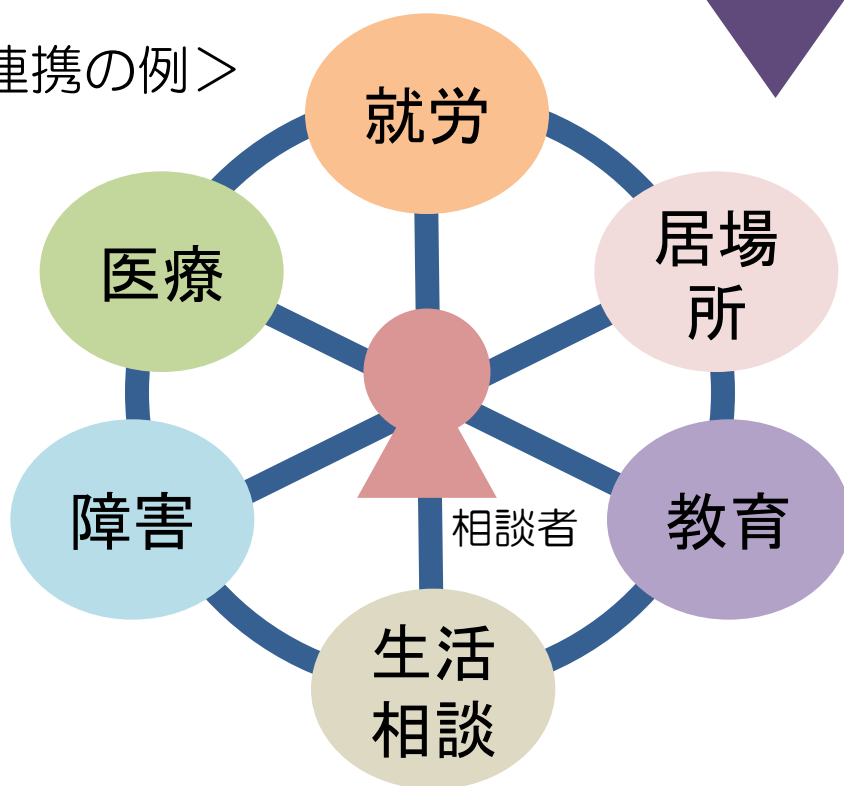
# ◆相談者の9割以上が、 重複した困りごとを抱えている。

例) 不登校＋発達障害＋親子関係＋暴力

例) 引きこもり＋就労に関する悩み＋人間関係に関する悩み



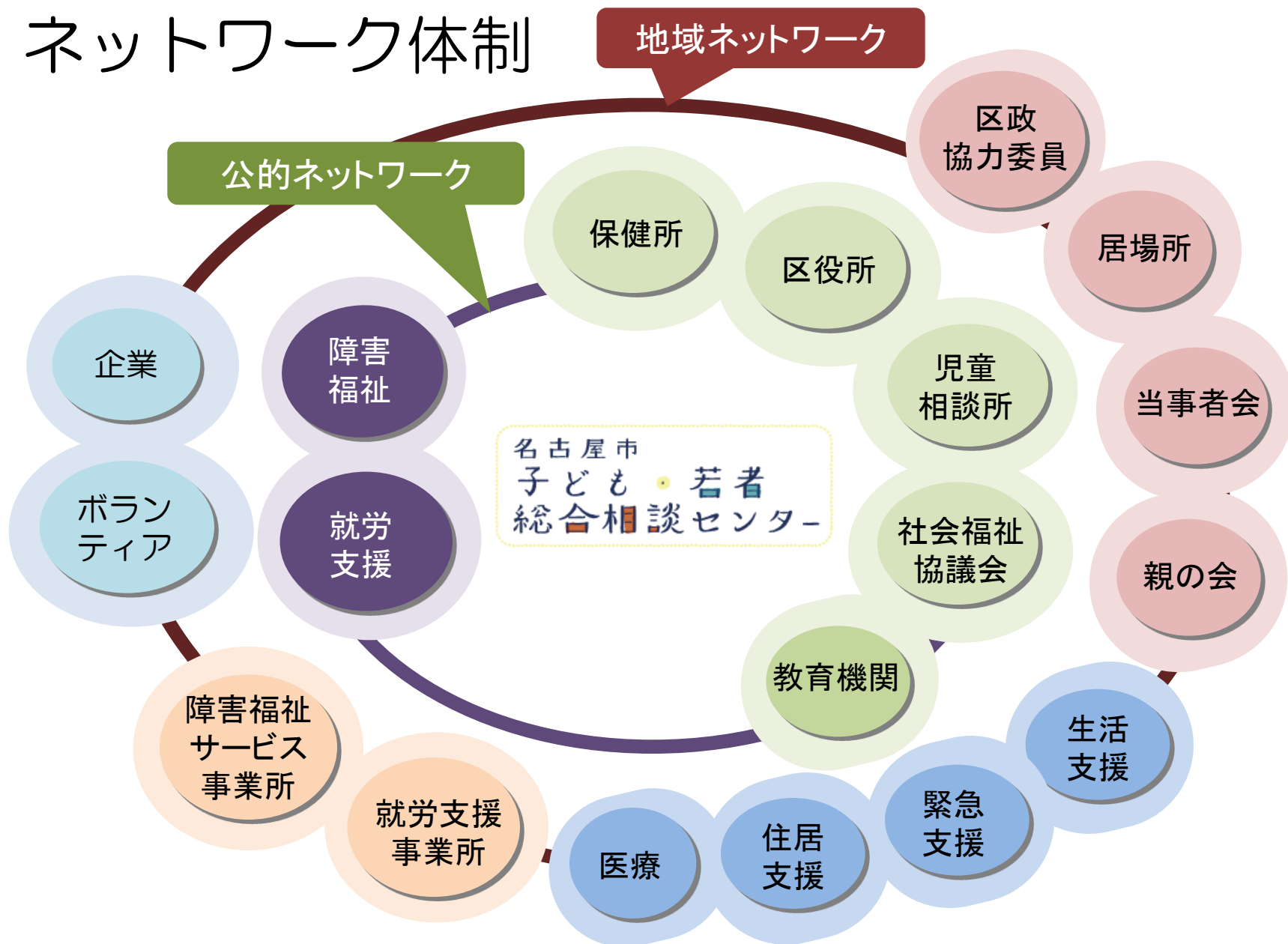
＜連携の例＞



複数同時の悩みには、  
複数同時の支援が必要

地域での  
多分野連携  
による  
支援が重要

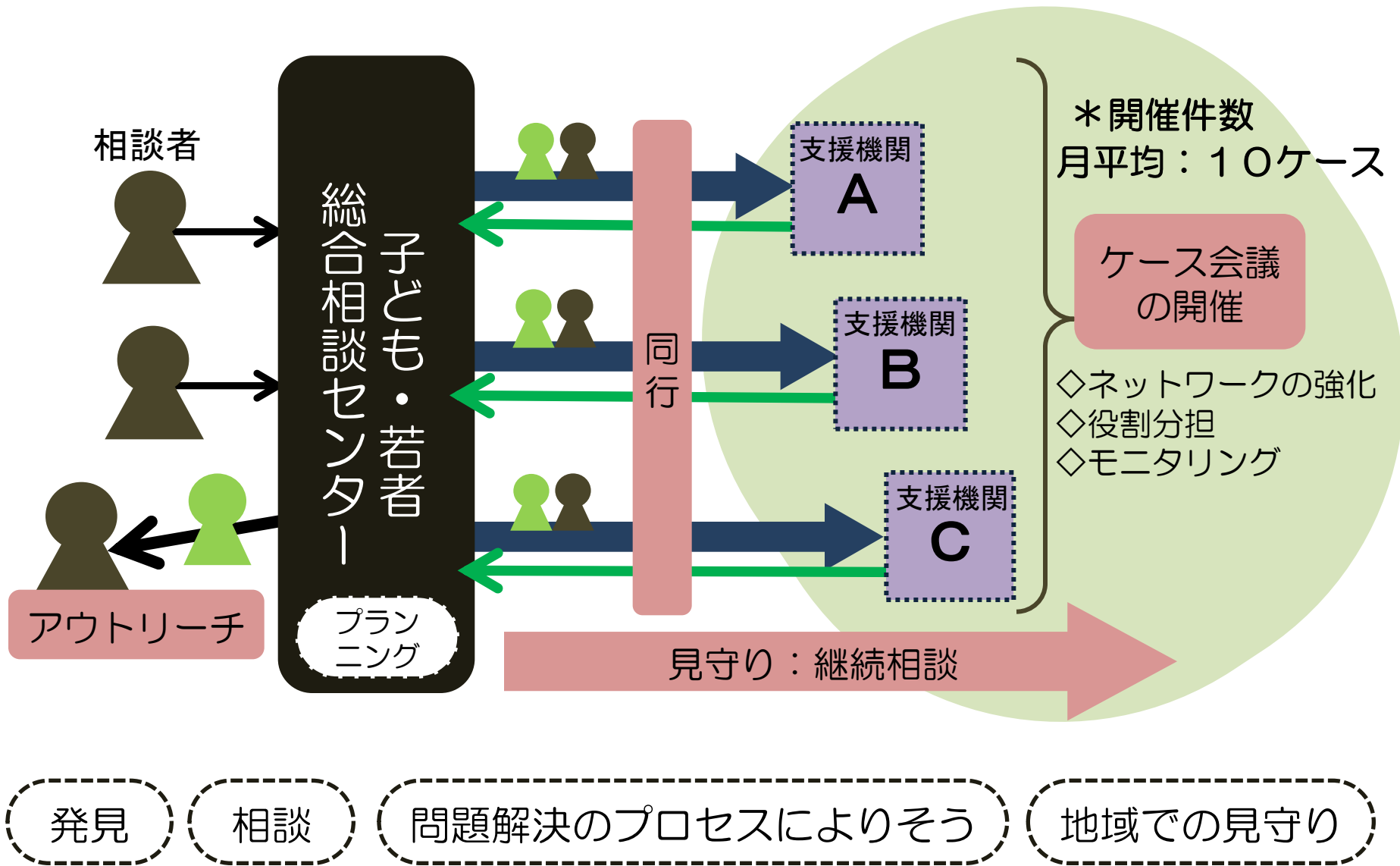
# ネットワーク体制



官民をこえた、多様な地域ネットワーク



# 子ども・若者総合相談センターの相談支援体制





ご本人/ご家族

## 子ども・若者総合相談センター 面談相談後の状況

子ども・若者  
総合相談センター

面談・  
電話相談  
(継続)

支援機関  
リファー  
73件

◆リファー機関との  
連携による継続した  
見守り：58件

◆終結：11件  
うち 就労：7名  
復学・進路決定：4名

見守り・関わりの継続：22件

終結：33件  
うち 安定就労：9名  
復学・進路決定：6名  
傾聴や情報提供：18件

### ◎高校不登校(うつ):10代◎



→ 継続面談・臨床心理士のカウンセリング  
→ 病院同行 → 学校連携 → 復学 → 就労決定

### ◎未就労・引きこもり(軽度知的障害):30代◎



家族との面談 → 本人へのアウトリーチ  
→ 来所(地下鉄に乗る)支援 → 来所面談  
→ 同行による就労支援機関見学へ

### ◎触法ニート:20代◎



→ 保護司との連携 → 行政機関との連携  
→ 生活支援(住居・金銭管理)の連携  
→ 病院同行 → アディクションの自助グループ

◎中学卒・非行→ 就労先を短期で離職 → 触法  
→ 家族との絶縁 → 若年ホームレス

多分野(11分野)の支援機関連携によるサポート  
発達障害の受診 → 就職活動開始

◎中学不登校(精神障害) → 卒業 →  
教育支援機関の家庭訪問が終了 → 引きこもり

障害福祉サービスの利用による、定期的な  
家庭訪問の継続 → 居場所スペースへ

◎フリースクール中退 → 引きこもり → 就労失敗  
→ 再引きこもり → 自傷行為 → 医療の未受診

お手紙や家庭訪問での、関係性の構築  
→まずは医療へ